

障がい者スポーツ用具貸出要領

公益財団法人
長野県障がい者スポーツ協会

(趣旨)

第1 この要領は、障がい者スポーツの振興のため、公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会（以下「協会」という。）が保有するスポーツ用具を貸出する際の手続を定めるものです。

(貸出の原則)

- 第2 協会は、自らの事業で使用しないときは、その保有する貸出可能なスポーツ用具（別紙1）を、希望する学校、団体、個人等へ貸出し、障がい者のスポーツ活動を支援します。
- 2 貸出は、原則として先に申し込みのあったものを優先とします。
 - 3 貸出期間は特別な場合を除き、2週間以内とします。

(貸出申請)

第3 貸出を希望する者は、協会へ事前に連絡し、貸出期間等の条件を調整した上で、貸出申請書（別紙2）により、協会へ申請します。

(貸出の審査、決定)

- 第4 協会は申請内容を審査し、障がい者スポーツの振興に資すると認めるときは、貸出を決定します。
- ただし、スポーツ用具のうちバイスキーについては、安全に使用するため、操作（指導）を行う者のうち必ず1名以上はバイスキー講習会を受講した者がいることを要件とし、いない場合は貸出ししないものとします。
- 2 貸出を決定した時は、口頭で申請者へ通知します。
- ただし、スポーツ用具のうちバイスキー、チェアスキー及び車いすレーサーについては、高価でかつ破損しやすいものですので、文書（別紙3）により貸出決定とともに使用及び管理に十分注意するように通知します。
- 3 バイスキーの貸出に際しては、安全に使用するため、操作（指導）の注意事項（別紙4）を交付して注意を促します。

(貸出時の確認)

第5 協会は、貸出時に破損、汚れなどの用具の状態と数量を確認し、引渡しするものとします。

(借用者の責務)

- 第6 借用者は、貸与を受けたスポーツ用具を善良な管理者の注意をもって管理し、良好な状態で返還しなければなりません。過失により、貸与を受けたスポーツ用具を毀損、滅失又は紛失した場合は、原状回復の責任を負わなければなりません。
- 2 借用者は、貸与を受けたスポーツ用具の使用に当たっては、その使用方法、注意事項を事前に十分確認し、事故を防止するための安全対策をとらなければなりません。

(返還)

- 第7 借用者は、貸与を受けたスポーツ用具を借用期間が満了するまでに協会へ返還しなければなりません。
- 2 協会は、返還されたスポーツ用具について、破損、汚れなどの状態と数量を確認して受領するものとします。

(経過)

制定	平成23年	2月	3日
変更	平成28年	12月	1日

(別紙1)

貸し出し可能用具一覧表

公益財団法人 長野県障がい者スポーツ協会

物 品 名	個 数	備 考	
ニュー スポーツ	フロッカー	1セット	
	公式わなげ	6セット	
	ヒットだ！ターゲット	2セット	
	キンボール	2セット	
	電動ブロワ	2セット	
	バルバレーボール	2セット	
	ニチレクボール	3セット	
パラシュット	2台		
フライングディスク 競技用物品	フライングディスク	80枚	
	アキュラシー・ゴール	6基	
	アキュラシー競技用旗	6本	
	マーカー	2式	
	スローイングライン	6式	
陸上競技用物品	レーザー	2台	
	ビーンバック	3個	
	ソフトボール	10個	
	ハンドボール	6個	
	リレーバトン	1式	
	ピストル	3丁	
卓球	ラケット	3組	
サウンドテーブル テニス	サウンドテーブルテニス用卓球台	2台	信州スカイパーク、波田保健福祉センターに保管(各1台)
	ラケット	2組	
	ボール	1ダース	
	アイマスク	30個	
シッティング バレーボール	支柱、ネット	1式	
	バレーボール	3個	
ゲートボール	ゲートボール競技用具	6式	
アーチェリー	アーチェリー用具	3式	リカーブボウ、矢
バスケットボール	ボール	3個	7号球
	オフィシャル機器	2式	
写真パネル	トリノパラリンピック	50枚	
	長野パラリンピック	35枚	No. 1～35
バイスキー		2式	
チェアスキー		3式	
展示用シットスキー		1式	
スレッジレーザー		1式	
ビームライフル		1式	銃、充電器、的、得点板
その他	バランスボード	2個	メディカルチェック用
	ウォータージャグ	9個	大5、中3、小1
	クーラーボックス	2個	
	ゼッケン	300枚	No. 1～300
	ビブス(手話通訳)	20枚	
	ビブス(指導員)	70枚	
	ビブス(介護)	10枚	
	ビブス(伴走)	10枚	スキー大会用(ナイロン製)
	応援用横断幕(縦100×横400)	2枚	「ガンバレ!!長野」
	応援用横断幕(縦60×横300)	2枚	〃
	応援用のぼり旗	20枚	〃
	のぼり旗用ポール	30本	
	ストップウォッチ	5個	

(別紙2 全ての用具の場合に共通)

障がい者スポーツ用具借用申請書

令和 年 月 日

公益財団法人 長野県障がい者スポーツ協会
理事長 奥原 明男 様

(申請者) 住 所
団 体 名
団体代表者名
氏 名
電話番号

印

下記のとおりスポーツ用具を貸与してください。借用中は、善良に管理しますが、万が一過失により、用具を破損・紛失した場合には原状回復いたします。

(貸出期間は特別な場合を除き、2週間以内とします。)

借用用具	品 名 _____ 数 量 _____
目 的	
借用期間	令和 年 月 日から令和 年 月 日まで
使用場所	
バイスキーを借用申請する場合の操作者について	1 操作者（指導者）の所属、資格、氏名 ・所属、資格 _____ ・氏名 _____ 2 操作者（指導者）のバイスキー講習会受講歴 ・受講年月 _____ ・講習会名（主催者） _____ ※ 安全のため、受講歴のある人がいない場合は貸与できません。

【協会記入欄】

職員確認	貸出時（サイン） 職員 _____	返却時（サイン） 職員 _____
貸出時の状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
返却時の状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良（破損、汚れ、紛失 その他 ）	

様

公益財団法人
長野県障がい者スポーツ協会
理事長 三村 一郎

障がい者スポーツ用具の貸与について (通知)

先に申請のありました障がい者スポーツ用具については、申請どおり貸与します。
使用及び管理に当たっては、下記の点に注意して、安全に使用し、良好な状態で期限までに返還してください。

記

1 良好な管理

今回貸与するスポーツ用具(チェアスキー、バイスキー、車いすレーサー)は、高価で、かつ破損しやすい物品ですので、使用及び管理に当たっては、その使用方法、注意事項を事前に十分確認してください。

貸与を受けたスポーツ用具は、善良な管理者の注意をもって管理し、良好な状態で返還してください。過失により、毀損、滅失又は紛失した場合は、原状回復をしていただくこととなりますのでご承知ください。

2 安全な使用

貸与を受けたスポーツ用具の使用に当たっては、その使用方法、注意事項を事前に十分確認し、事故を防止するための対策をとって安全に使用してください。

また、バイスキーの場合には、別紙注意事項も参考にし、安全に使用してください。

公益財団法人	長野県障がい者スポーツ協会
担当	
住所	〒381-0008 長野市大字下駒沢586
電話	026-295-3661
FAX	026-295-3662
E-mail	info@nsad.or.jp

バイスキーの操作（指導）時の注意事項

1 滑走時の操作（操作者（指導者））

（1）スピードの制御

バイスキーは急制動することが難しい構造で、後方から操作者（指導者）が制動用のロープを使用してスピードを制御することが必要です。

（2） バイスキーと操作者（指導者）の間隔

間隔が狭いと、制動が難しいとともに、操作者（指導者）のスキーがバイスキー本体やアウトリガーに接触して転倒する恐れもあります。

逆に間隔が広すぎると、他のスキーヤーがロープに突っ込む恐れが出てきますので、制動しやすい適当な間隔を確保することが必要です。

（3） 操作者（指導者）の人数

1人の操作者（指導者）が、スピードの制御、ターンの補助、他のスキーヤーとの安全確保を行うことは、体力的、技術的に負担が大きいです。

ゲレンデの状況、バイスキーヤーの技術レベル、操作者（指導者）の経験等に応じて、2～3人の操作者（指導者）により、安全な態勢をとることが必要です。

2 リフト乗降時の補助（補助者）

安全のため、乗降時にはできるだけリフトを停止してもらってください。

（1） リフト上部の業務

- ① バイスキーヤーがリフトから降りる時、ペアリフトでは操作者（指導者）が横に1人しか乗っていないので、必ず反対側で待機し、タイミング良く、操作者（指導者）が行うのと一緒にバイスキーを前に押し出しながら、リフトから降ろします。
- ② バイスキーの横のシャフトを掴みながら押し出すとやりやすいです。
- ③ 必ず操作者（指導者）のタイミングに合わせて行ってください。
- ④ まっすぐにバイスキーを押さないと転倒してしまう恐れがあるので注意してください。

（2） リフト下部の業務

- ① バイスキーヤーがリフトに乗る時に、ペアリフトでは横に1人しか乗れないので、反対側にもう1人が付いて、バイスキーを持ち上げながら、リフトに乗せます。
- ② バイスキー後上部のハンドルを持ち上げるとバケット（椅子の部分）が浮いて、そのリフトを挟ませます。
- ③ 操作者（指導者）と声を合わせてタイミング良く、思いっきり持ち上げないと、バイスキーがうまくリフトに挟まりません。